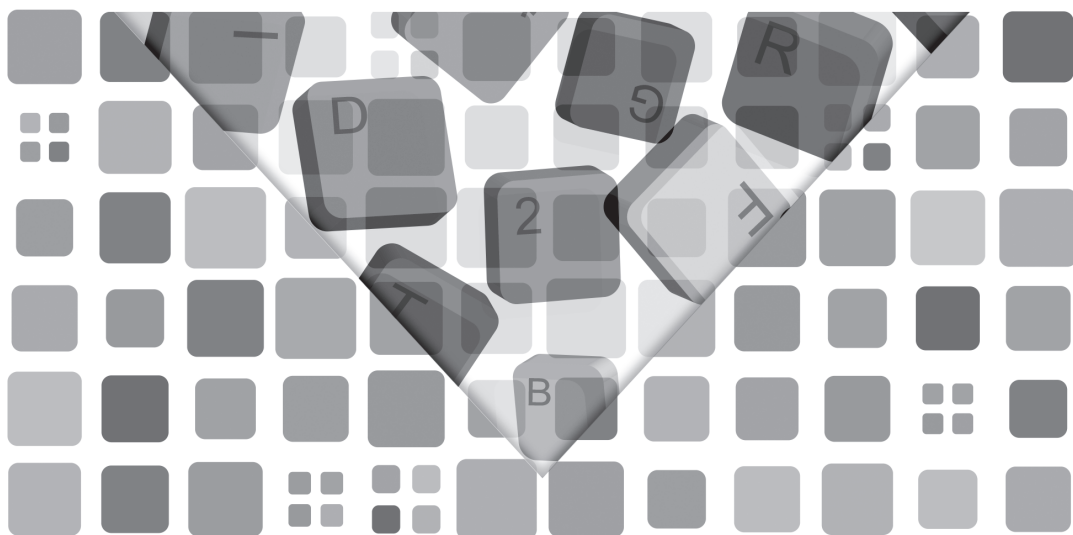


# ステップ30

# タイピング練習

ワークブック

Windows 10版



Step 01	タイピングの基本	6
	1.1 キーと指の対応	
	1.2 ホームポジションについて	
	1.3 タッチタイピングの利点	
Step 02	タイピング練習の準備	11
	2.1 入力モードの確認	
	2.2 大文字/小文字の確認	
	2.3 タイピング練習ツールの利用方法	
	2.4 「メモ帳」でタイピング練習を行う	
Step 03	中段の練習	17
	3.1 中段(右手)の練習	
	3.2 中段(左手)の練習	
Step 04	上段の練習	21
	4.1 上段(右手)の練習	
	4.2 上段(左手)の練習	
Step 05	下段の練習	25
	5.1 下段(右手)の練習	
	5.2 下段(左手)の練習	
Step 06	アルファベットの入力練習	29
	6.1 アルファベットの重要性	
Step 07	[スペース]キーと[Enter]キー	32
	7.1 [スペース]キーと[Enter]キーのタイピング	
	7.2 問題表示だけのタイピング練習ツール	
Step 08	記号キーの練習	37
	8.1 右手の小指で押す記号キー	

Step 09	ローマ字入力の練習－1	39
	9.1 全角入力モードの選択	
	9.2 「あいうえお」の練習	
Step 10	ローマ字入力の練習－2	42
	10.1 「か行」「な行」「は行」「ま行」「や行」の練習	
Step 11	Step 11 ローマ字入力の練習－3	45
	11.1 「さ行」「た行」「ら行」「わ行」の練習	
Step 12	Step 12 ローマ字入力の練習－4	47
	12.1 濁音、半濁音の練習	
Step 13	Step 13 ローマ字入力の練習－5	49
	13.1 「ん」の入力	
	13.2 小さい「っ」の入力	
Step 14	Step 14 ローマ字入力の練習－6	52
	14.1 小さい「ゃ」「ゅ」「ょ」の入力	
	14.2 小さい「ぁ」「ぃ」「ぅ」「ぇ」「ぉ」の入力	
	14.3 少し特殊なローマ字入力	
Step 15	Step 15 日本語で使う記号の練習	56
	15.1 「ー」（長音）の入力	
	15.2 「、」「。」（句読点）の入力	
	15.3 カッコの入力	
Step 16	Step 16 漢字変換の練習－1	60
	16.1 漢字変換の手順	

Step **17** 漢字変換の練習－2 ..... 65

- 17.1 文節の選択と漢字変換の修正
- 17.2 文節の区切りの変更
- 17.3 スムーズに漢字変換を行うコツ

Step **18** 漢字変換の練習－3 ..... 69

(演習のみ)

Step **19** 数字キーの練習 ..... 72

- 19.1 数字キーのタイピング方法
- 19.2 数字の変換

Step **20** テンキーの練習 ..... 76

- 20.1 テンキーのホームポジション
- 20.2 各キーと指の対応
- 20.3 全角入力モードにおけるテンキー

Step **21** [Shift] キーの操作が必要な入力 ..... 80

- 21.1 [Shift] キーの操作が必要な文字
- 21.2 [Shift] キーのタイピング方法
- 21.3 記号の変換
- 21.4 [Shift] キーを使った大文字の入力

Step **22** アルファベットが混じった文章 ..... 85

- 22.1 全角と半角の切り替え
- 22.2 [Caps Lock] キーの利用
- 22.3 [Shift] キーを利用する

Step **23** ファンクションキーの活用 ..... 88

- 23.1 全角英数変換 (F9) / 半角英数変換 (F10)
- 23.2 ひらがな変換 (F6) / カタカナ変換 (F7)

Step <b>24</b>	文章入力の練習 ..... 92
	(演習のみ)
Step <b>25</b>	矢印キーの活用 ..... 95
	25.1 [矢印]キーを使ったカーソルの移動
	25.2 [Shift] + [矢印]キーで文字を選択する
Step <b>26</b>	コピーと貼り付け ..... 97
	26.1 [Ctrl] + [C]と[Ctrl] + [V]
	26.2 [Ctrl] + [X]
Step <b>27</b>	便利なショートカットキー ..... 100
	27.1 ショートカットキーのタイピング方法
	27.2 覚えておくと便利なショートカットキー
Step <b>28</b>	予測入力の活用 ..... 102
	28.1 予測入力の使い方
	28.2 予測入力の設定
	28.3 郵便番号から住所を入力
Step <b>29</b>	辞書ツールの活用 ..... 105
	29.1 辞書に単語を登録する
	29.2 「短縮よみ」で文章を素早く入力
Step <b>30</b>	IMEパッドの活用 ..... 109
	30.1 「手書き」で漢字を入力
	30.2 「部首」や「画数」で検索して漢字を入力

◆タイピング練習ツールのURL

<http://----->

# タイピングの基本

タイピング技術を上達させるには、タイピングの基本を学んでおく必要があります。いつまでも自己流のタイピングを続けるのではなく、キーボードを見ないで入力する「タッチタイピング」を習得できるように、タイピングの基本から学習していきましょう。

## 1.1 キーと指の対応

タッチタイピングができない人は、「キー」と「指」の対応がバラバラになっているようです。すべてのキーを「人差し指」だけで押す人もいれば、やたらと「人差し指」と「中指」が活躍する自己流タイピングをしている人も多いようです。

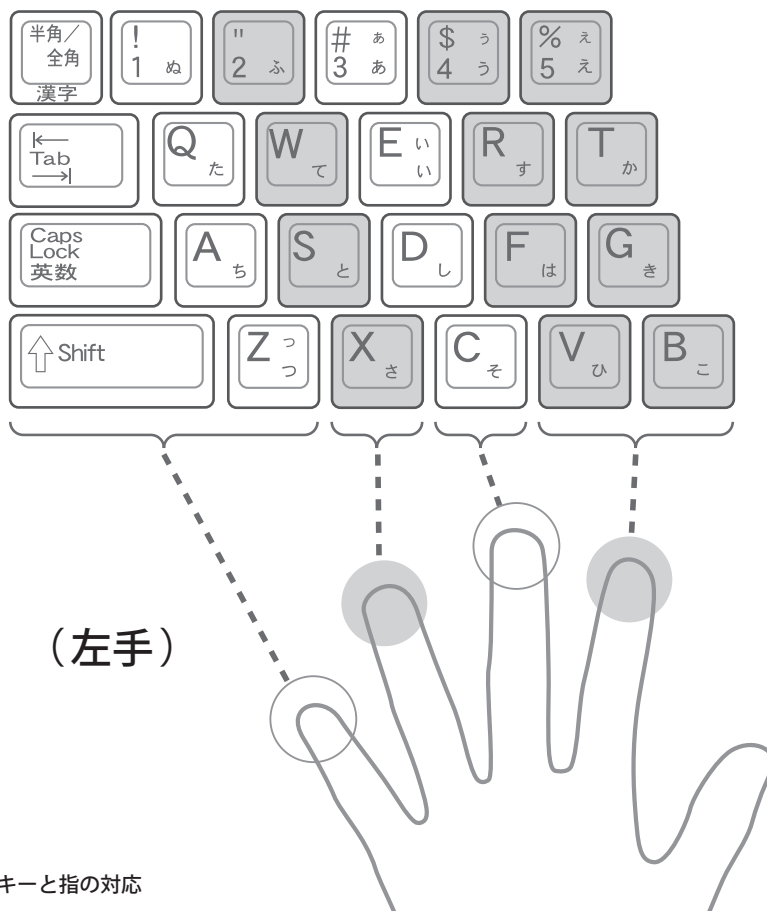


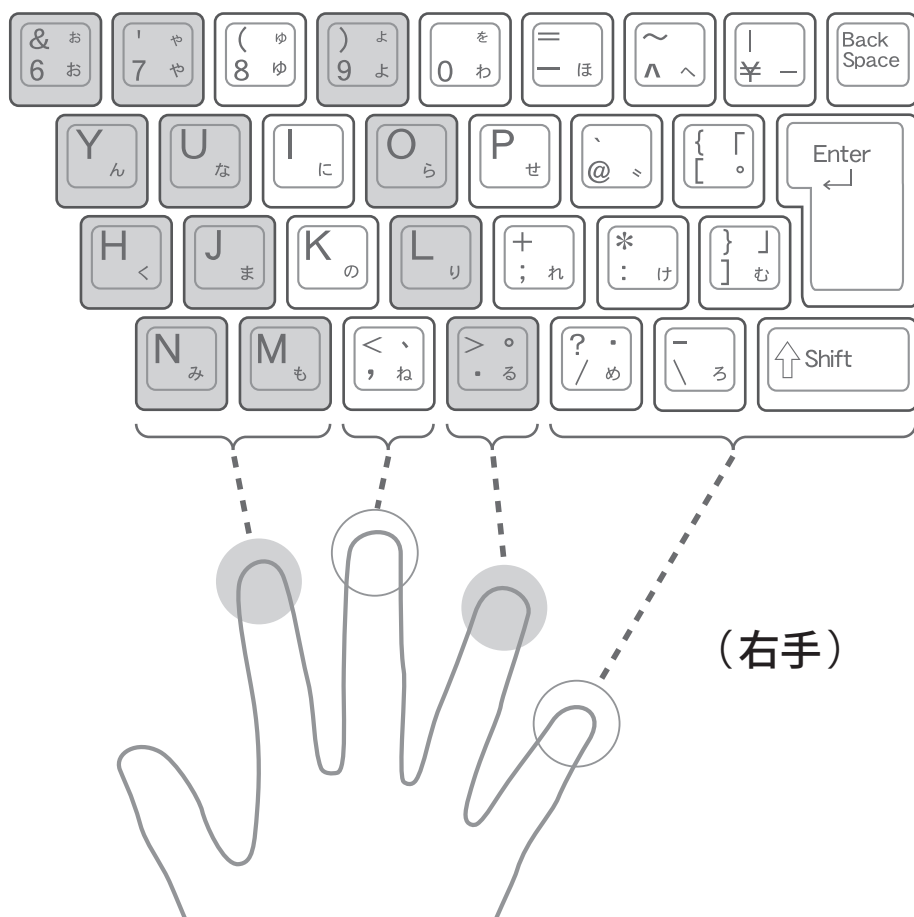
図1-1 キーと指の対応

このような状態では、ある程度のタイピング速度にはなるものの、すぐに限界に達してしまいます。「高速なタッチタイピングには到底およばない……」というのが実情でしょう。

その場限りで適当にキーを押しているようでは、タッチタイピングを実現できません。キーボードを見なくても「どの位置にどのキーがあるのか？」を把握しておく必要があります。そのためには**キーと指の対応**を覚えなければなりません。

タイピングは左右10本の指を使って行うのが基本です。また、各キーを押す指はいつも同じでなければいけません。その対応を示したのが以下のイラストです。このイラストに従うと、[A]キーを押すのは必ず「**左手の小指**」になります。同様に、[B]キーは「**左手の人差し指**」、[K]キーは「**右手の中指**」になります。このように「**キーと指の対応**」を決めることが、タッチタイピングを実現するための第一歩となります。

なお、以下のイラストでは「**親指**」に対応するキーが省略されていますが、通常、親指は[スペース]キーを押す指になります。



## 1.2 ホームポジションについて

タッチタイピングを実現するにあたり、もうひとつ大切なことがあります。それはホームポジションの位置を覚えることです。ホームポジションにあたるキーは、[A] [S] [D] [F] キーと [J] [K] [L] [;] キーの8つです。これらのキーの上に「人差し指」から「小指」の8本を自然に乗せるのがタイピングの基本姿勢となります。

このホームポジションを基点とし、各キーの位置を相対的に把握することで、**キーボードを見ないタイピング**を実現します。たとえば、[J] キーを押すときは、そのまま「右手の人差し指」でキーを押します。[U] キーを押すときは「右手の人差し指」を少し左上にずらして押します。同様に、[X] キーを押すときは「左手の薬指」を少し右下にずらして押します。

このように、それぞれの指はホームポジションの位置から「左上」または「右下」の方向に動かすのが基本です。キーを押した後に、必ず**ホームポジションに指を戻す**ことも重要なポイントとなります。あとは、各キーの配置をできるだけ早く覚えてしまうこと。頭で配置を丸暗記するのではなく、実際に練習しながら自然に「キーの位置」と「指の対応」を覚えていくとよいでしょう。

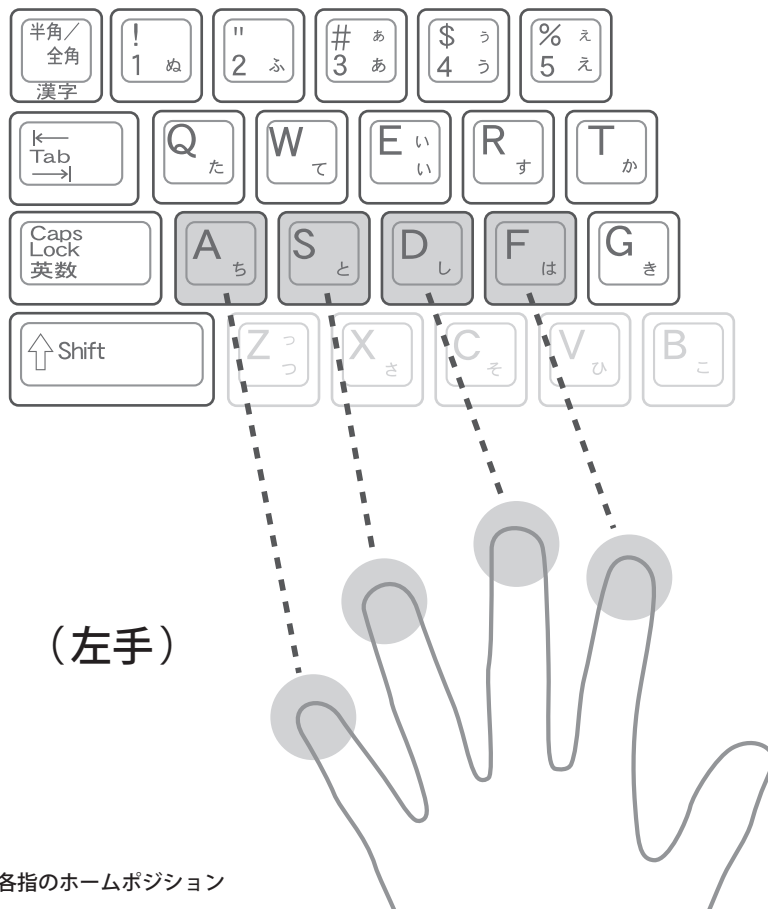


図1-2 各指のホームポジション



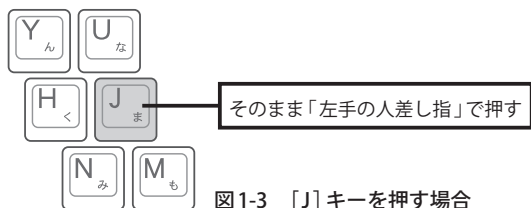


図1-3 [J]キーを押す場合

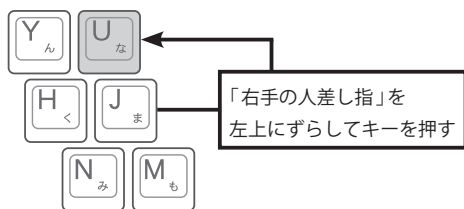


図1-4 [U]キーを押す場合

「右手の人差し指」を少し左上にずらしてキーを押し、その後[J]キー（ホームポジション）に指を戻す。

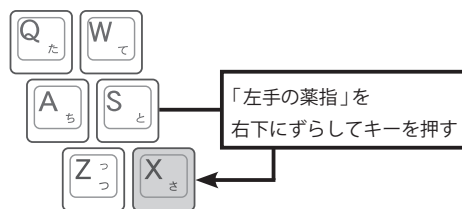
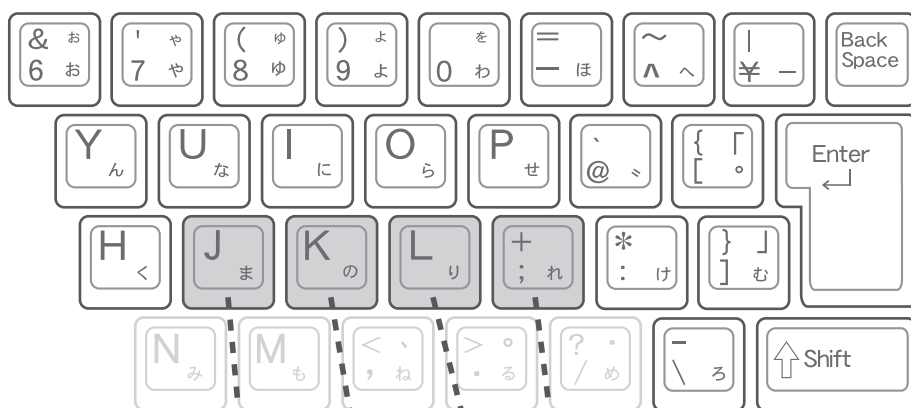


図1-5 [X]キーを押す場合

「左手の薬指」を少し右下にずらしてキーを押し、その後[S]キー（ホームポジション）に指を戻す。



(右手)

## 1.3 タッチタイピングの利点

タッチタイピングには、「キー入力を速くすること」以外にも利点があります。それはパソコンに向かう**姿勢が良くなる**ことです。タッチタイピングを行うには、常にホームポジションに指を置き、スムーズに指を動かさなければなりません。そのための必要条件となるのが「姿勢を直すこと」です。むしろ、タッチタイピングを行っているとき、自然に背筋が伸びて正しい姿勢になる、という方が適切かもしれません。

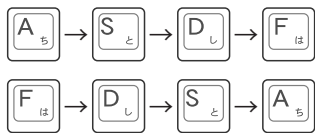
もうひとつの利点は**目が疲れにくくなる**ことです。タッチタイピングができない人は、画面とキーボードの両方を交互に見なければならぬため、どうしても目の動きが大きくなってしまいます。そのぶん、目のピント調整も頻繁になります。つまり、それだけ目の筋肉を酷使していることとなります。一方、タッチタイピングは画面（モニター）だけを見て作業を進められるため、視線の動きが小さくなり、目が疲れにくくなります。

### 演習

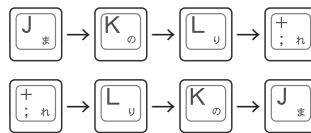
それでは、実際に「タイピングの基本」を練習してみましょう。ここでは**ホームポジションの位置と指の動き**を確認します。現時点では、パソコンの電源を入れる必要はありません。誤動作を防ぐためにも**電源OFFの状態**で擬似的なキー入力を行うようにしてください。

- (1) ホームポジションに指を置き、各キーを以下の順番で押してみましょう。

(左手)

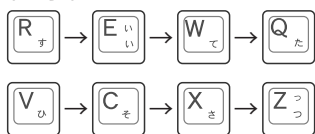


(右手)

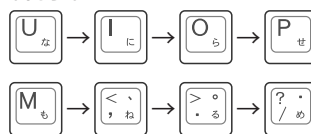


- (2) ホームポジションの位置から以下のキーを押してみましょう。キーを押したあとは、必ず指を元の位置（ホームポジション）に戻します。

(左手)



(右手)

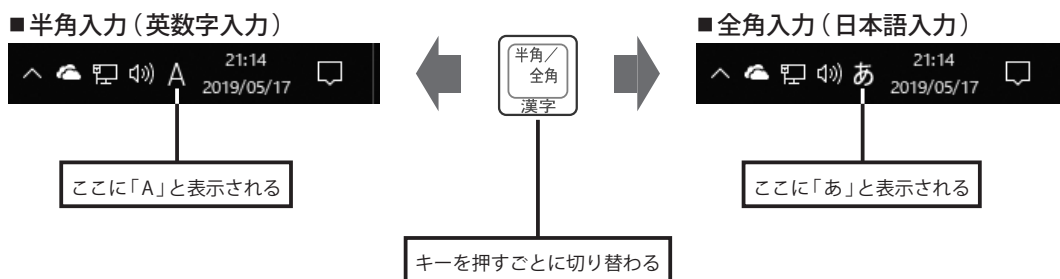


## タイピング練習の準備

ステップ01では、パソコンの電源をOFFにした状態でタイピングの練習を行いました。しかし、これでは面白みに欠けます。そこで、このステップでは「タイピング練習ツール」の利用方法と、「メモ帳」でタイピング練習を行う方法を解説します。

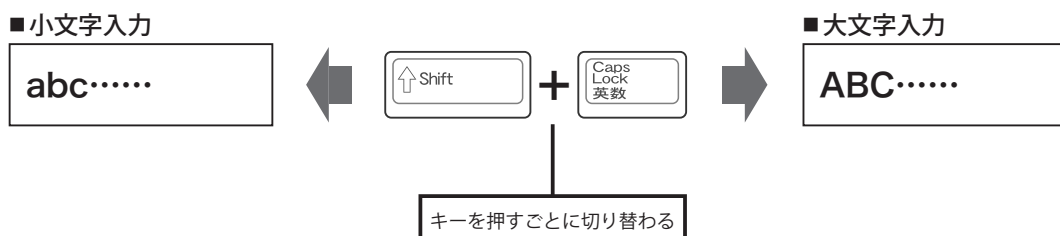
### 2.1 入力モードの確認

タイピング練習を行うときは、はじめに**入力モード**を確認しておく必要があります。入力モードの切り替えは[半角/全角]キーで行います。現在の入力モードは、画面右下にあるタスクバーを見ると確認できます。



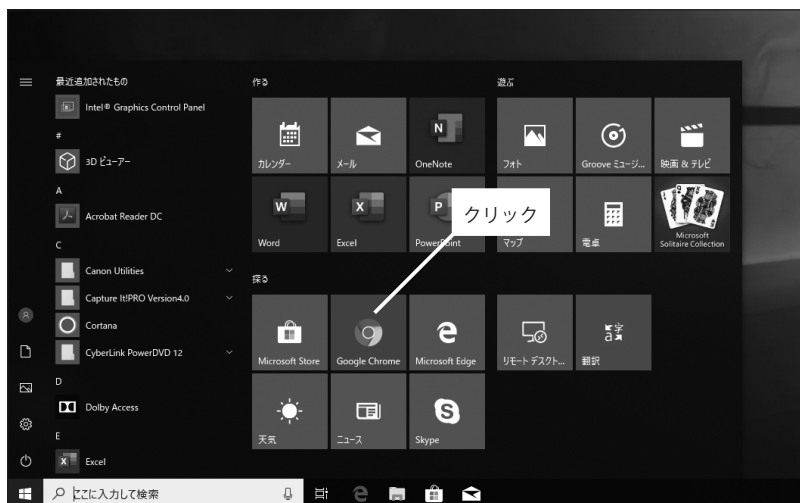
### 2.2 大文字/小文字の確認

アルファベットを入力するときは、**大文字/小文字**の入力モードにも注意しなければいけません。通常、Windowsではアルファベットが小文字で入力されます。[Shift]キーを押しながら[Caps Lock]キーを押すと、これを大文字入力に変更できます。再度[Shift] + [CapsLock]キーを押すと、元の小文字入力に戻ります。

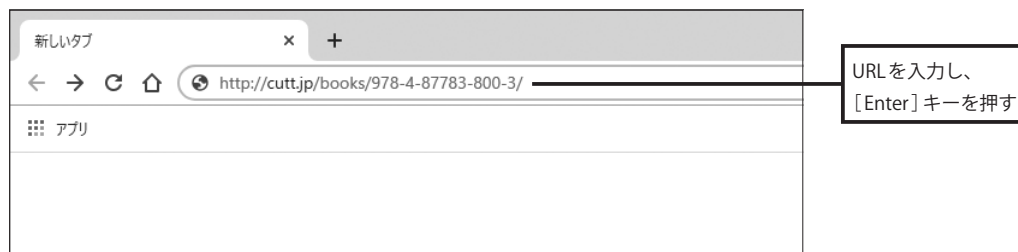


## 2.3 タイピング練習ツールの利用方法

本書では、インターネット上に用意した**タイピング練習ツール**を使ってタイピングの練習を行います。このツールの利用手順は以下のとおりです。



1 スタートメニューなどからWebブラウザを起動します。



2 アドレスバーに「<http://cutt.jp/books/978-4-87783-800-3/>」と入力し、**[Enter]**キーを押します。

### ワンポイント

#### ブックマークの活用

そのつどURLを入力するのは面倒なので、この時点でWebページを**ブックマーク**などに登録しておくとういでしょう。次回以降は、ブックマークから「タイピング練習ツール」を選択するだけで、手順3の画面を表示できるようになります。